

■ 発行人 飯山市農業委員長 松永晋一
■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：0269-62-3111
(内線261)
FAX：0269-62-6221

13.9
No.202

平成25年度

農業委員会管外研修視察の実施

7月23日、24日に千葉県香取市の農事組合法人「和郷園」及び木更津市「エザワフルーツランド」の二ヶ所を研修視察しました。

「和郷園」は平成3年に代表者の木内氏が有志5名で野菜の産直から始め、現在は「株」和郷」と「農」和郷園」とに分けられます。

「株」和郷」は主に製品の出荷・販売・加工を受け持ち、冷凍野菜工場やカット野菜工場等の六次産業にも力を入れています。「農」和郷園」は生産者組織であり、農産物の生産を受け持ちそれぞれの事業に打ち込みやすい組織になっています。作付け前



特筆すべきはリサイクルセンターがあり、カット野菜工場等や取引先から発生する野菜残渣等とグルーブ農家から提供される牛糞で、高度な有機質堆肥を生産し、野菜の生産に活かしているなど、効率よく事業展開されています。

また、出荷以外の農産物はカット野菜や冷凍野菜として販売し収入増に貢献しています。よう気をつけています。

培を始めたものです。経営は「摘み取り農園」「苗木の販売」「果実販売」の三本柱で、病害虫等の被害の少ない時期に収穫できる品種を選び、無農薬での栽培をしています。



この地区には他にもブルーベリー農園が見られ、観光農園が定着しています。特にアクアラインを利用して短時間で都心より来られるのが魅力、江澤さんはブルーベリーの栽培指導も行っており、仲間を増やし一大産地を目指しています。

今回視察したところは加工や観光農園等農産物に付加価値をつけることに力を入れており、今後の在り方の参考になりました。



(農業委員 小林喜代春)

北信州農村女性のつどい開催

北信州農村女性のつどい実行委員会・北信農業改良普及センター主催
8月30日、野沢温泉村にて「次代につなげよう我が地域」をテーマに開催されました。

はじめに、信州いやま観光局事務次長の木村宏さんから観光と農業の共栄について講演があり、「お客さんの目線で見るときにもてなしになる。農業体験だけでなく、農家の人が自然の中で作業をするといった農村空間を来客者は喜んでくれる」、「北信州には誇れる景色や豊かな森と水との産物があり、これから新幹線がやってくる。自信を持って情報発信してほしい」と述べました。

続いて事例発表では、野沢温泉村の宮崎春美さんから野菜の花を咲かせる会の発表があり、女性五人で荒れた畑の草刈りから始まり、菜の花を植え、地域の皆さんに株分けし、徐々に色々な花を村中に咲かせるまでになったこと、苦労はしたが仲間作りができたこと、地域で広がってきたことが嬉しいと報告されました。会場には宮崎さんの多くの花が飾られ、会場を盛り上げていました。

次に、飯山市太田の野口豪さんから「農家民宿(城山荘)を開業して」の発表がありました。野口さんは昨年奥さんと共に、東京から太田地区にある祖父の実家に引っ越して農業を始めた青年で、今年農家民宿も開業されました。



隣近所のおばあちゃんのアドバイスを受けたり、大学時代の先生や後輩の皆さんに助けられたり、外国のお客さんとのつながりで、新しい企画を提案したり、コミュニケーションを取るための指差し「絵本の作成」に取り組んだり、新しい視線や感性で苦労しながらも楽しく取り組んでいる感じを受けました。イターン者として地域で大切に、アドバイスを頂きたい人材と感じました。

最後に、飯山市の三ツ野幸美さんから「飯山市農村女性団体連絡会の活動」が報告され、新幹線飯山駅開業に向けて取り組み、市長との懇談会で「飯山駅でアスパラをメ

インにした祭り」を提案したら実行委員長になり、心配しながらも市役所やJA等の協力を得て約千人のお客さんを迎えて盛会に開催できたことが報告されました。女性の意見により、行政やJA、地域が協力して事業を行った素晴らしい事例だと思います。

また「いやま農村女性プラン」では、飯山へ嫁いだ皆さんに郷土料理や食文化を伝えるために開催した「ふるさとの味交流会」の報告されました。郷土料理の伝承と共に若い世代育てる素晴らしい取り組みだと思えます。

この「つどい」は毎年、情報交換ができる行事として、農村女性の楽しみになっています。農業委員 坪根



(7・8月の活動記録)

- 7月3日 長野県女性農業委員の会総会
- 10日 農業委員会役員会
- 23・24日 農業委員会研修視察(千葉)
- 29日 農業委員会総会
- 8月9日 農業委員会役員会
- 29日 農業委員会総会・北信5市農業委員研修会
- 30日 北信州農村女性のつどい(野沢温泉村JA北部支所)

あしあと



あぜ道だより



岡山地区農業委員 渡邊敬一

暑さ寒さも彼岸までと昔からよく言われることだが、今年の夏は日本中異常な猛暑日の連続であり、熱中症になった人の報道も連日のように新聞やテレビで伝えられた。そんな暑い夏もようやく終わり、実りの秋を迎えようとしている。

近年よく異常気象という言葉が耳にする。地球温暖化、大気の不安定による落雷、突風に竜巻、また局地的な豪雨(ゲリラ豪雨)などである。言うまでもなく自然相手の農業は気象と密接に関係している。アメリカのNASAによると今年の平均気温は過去最高になると予測している。地球温暖化により毎年平均気温が上がり続けたら大変な事であり、特に日本の食料自

給率は低く、外国からの輸入に頼っている以上、世界中の気象状況が即私達の生活にも影響を及ぼすのである。今年は凍霜害による野菜苗の枯れや果樹栽培の被害に始まり、その後、少雨の地域では水不足になり成長不良が深刻で立枯が発生した。人間が天気をコントロールし、雨を降らせたり、台風の進路を変えたりすることができると時代が来るのでしょうか。

年々作物の品種改良が進み、施設栽培や保存技術の進歩により、農産物は昔と違いおいしい物が一年中食べられるようになったが、やはり露地物が大部分であり、その季節に栽培された旬の物が一番おいしいと感じるのは私だけですかね? 自然相手の農業である以上、気象条件に対応できる栽培技術を身に付け、より良い農産物の栽培ができるよう努力していかねばならないと思う所である。これから、この地域は水稲の収穫が進み、菌茸類の本格的な栽培に入りますが、今年の収穫に感謝しつつ新米農業委員のあぜ道だよりとします。

北信5市農業委員研修会開催

8月29日、中野市において千曲市以北の北信5市農業委員約140名が集まり研修会が開催されました。

研修会では、県農政部農業政策課係長の伊藤洋人氏から県が作成した「第2期長野県食と農業農村振興計画」により、長野県農業の現状と課題、農業・農村の振興に向け、将来のめざすべき姿とそれを実現するための施策の説明がありました。



その後、須坂市の女性農業委員の太田奈徳氏より「野菜ソムリエになって」と題して事例発表がされ、生産者と生活者の架け橋の重要さと役割について体験を通しての発表があり、マーケティング、人に伝える時のポイントなど話され大変参考になりました。

長野県農業大学生募集

長野県農業大学校では、平成26年4月新設する、農学部総合農学科「実践経営コース」の入学生を募集します。このコースは、就農を目指す専攻コースで「人間力」「経営力」「生活力」「技術力」を身に付ける、時代に対応できる農業経営者を育てます。

【募集人員及び就業年限等】

募集人員：10人 終業年限：2年
受験資格：高校卒業等以上
入学試験：筆記試験：小論文のみ・面接



【受付期間】

受付期間：平成25年10月21日～11月1日まで

【試験日・場所】

第1次入学試験(筆記、面接)11月12日
第2次入学試験(面接)11月18日
場所：長野県農業大学校

【学費】授業料：年額118,800円ほかに諸経費有り

問い合わせ先：長野県農業大学校農学部事務局
TEL：026-278-5211 FAX：026-261-2121